

E 1 農村家族における嫁姑関係の変遷く静岡県志太郡岡部町の事例調査から  
お茶の水女大家政 松島宏子

目的 農村家族の嫁姑関係が時代的経過にともなう、どのように変化してきたか。現在の嫁姑関係はどのようなメカニズムによって統合がなされているかを明らかにする。

方法 (1)対象者 静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の30～59歳の有配偶女性29人 (2)調査時期 昭和57年8月29～31日 (3)調査方法 訪問面接聴取法

結果 (1)昭和20・30年代の嫁姑関係は、嫁が苦しい農作業や封建的人間関係の中で肉体的・精神的・経済的苦労に耐え、姑に対する『つとめ』を果たすなど絶対服従を守ることによって統合されていた。(2)現在は農業の合理化や深刻な嫁不足などから、農作業の重要な労働力を嫁に期待せず、嫁は家事・育児に専念し、姑が農作業をするケースが多数を占める。家事についても役割分担がなされている。(3)嫁、姑ともに、互いに思いやりをもち隠し事をせず何事もオープンに話し合うことが最も重要であると考えており、双方が歩みより協調することによって現在の嫁姑関係は統合されている。(4)しかし、嫁姑間の価値観の違いについて、姑は「言いたいことがあっても我慢する」「すべては時代の流れで仕方が無いと自分を納得させる」のに対して、嫁は「姑との意見や価値観のずれは当然である」「私は自分達の生活向上を願って努力する」と語っており、対照的である。(5)以上から、農村家族における嫁姑関係は依然として高い統合度を維持し続けているが、従来の直系家族的形態と「家」的結合にもとづく家制度的な統合のメカニズムは、今日嫁と姑相互の協調による統合へと質的に変化していると考えられる。しかし、姑の「自己犠牲にもとづく協調」に対して、嫁は「自己主張をともなう協調」という点で、両者は異なっている。